

# 夢をもち、多様な人と協働し、 社会を主体的に生き抜くことができる 人材の育成を目指して

地域の  
特色ある  
活動

～“文教のまちたけはら”の精神を受け継いで～

広島県竹原市教育委員会

## 1 はじめに

竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、東・北・西を山で囲まれ、南部は広く瀬戸内海に面しています。また、安芸の小京都と呼ばれる古い町並みや歴史、文化など豊かな地域資源を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

一方、本格的な人口減少社会が到来する中、持続可能な都市として発展していくため、本市の強みである「人と人の顔が見えるコミュニティ」を未来への礎とし、平成31年3月、目指す姿を「元気と笑顔が織り成す暮らし誇らし、竹原市。」と定めた「第6次竹原市総合計画」を策定しました。

教育施策では、これからの将来を担う人材を育む教育の役割はますます重要であることから、「夢をもち、多様な人と協働し、社会を主体的に生き抜くことができる人材の育成」と定め、グローバル教育やコミュニティ・スクールを軸とした地域全体で教育を支援する体制づくりなど様々な施策を進めています。

## 2 未来の人材育成推進事業

令和2年度から、グローバル社会を生き抜く人材の育成を目指した、未来の人材育成推進事業「TGG (Takehara Global Gateway)」を立ち上げました。本事業では、外国語によるコミュニケーション能力を高めたり、異文化・自文化理解を深めたりすることで、世界とつながり、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人材の育成をねらいとしています。

事業の一つとして、市内中学校及び義務教育学校から選考した中学生代表団がハワイ州を訪問し、姉妹校締結を行った現地ミドルスクールで交流活動を行っています。訪問前には、事前学習を積み重ね、「たけはら」を発信する準備を行うとともに、訪問後は、各学校や市長への報告会、また地元ケーブルテレビを活用して、国際交流で学んだことについて広く市民の皆様へも報告を行いました。

### 参加生徒の感想

ハワイには世界から色々な人種の方が来ています。色々な人がいて、色々な性格の人がいて、違う考えをもつ人もいます。でもその「違い」を受け入れていて、それが当たり前という教えで育っていると思います。このような色々な文化や考え方を竹原に持ち帰って広げ、自分を見つめ直す機会にしたいです。

今後は、相手先の学校の生徒代表にも竹原を訪問してもらい、竹原での交流も行いたいと考えています。



ホノウリウリミドルスクールでの交流



ハワイ州訪問



市長への報告会

### 3 幼保小連携教育

令和4年度から、「幼保小連携推進協議会」を新たに設置し、市内のこども園と小学校及び義務教育学校が連携し、育ちと学びを連続させるための取組を実践しています。

合同研修会を年3回実施し、こども園や小学校等の教員が授業や保育を参観し合う中で、子供たちの姿をもとに協議や幼保小接続カリキュラムの見直しを行っています。

#### 【第1回竹原市幼保小連携推進協議会】

竹原市幼保小連携推進協議会の1回目を昨年6月に行いました。市内の管理職が集まり協議をした後、広島大学名誉教授朝倉淳先生にご講義いただきました。講義では、幼保小連携接続への意識改革を行うことや後戻りしない連携を推進することを学びました。



推進協議会の様子

#### 【第2回竹原市幼保小連携推進協議会】

協議会の2回目を本年1月に行い、管理職・担当教員合同の保育参観を行いました。事後の協議では、次年度のカリキュラムについて連携し、「作成したカリキュラムは計画のみにとどまらず実現可能であるか」「担当が変わっても持続可能であるか」「学校の特色を生かしたものであるか」という視点で協議を深めることができました。

最後に、広島大学大学院教授七木田敦先生にご講義いただき、幼保小連携のために「何をするか」と形ばかり考えるのではなく、実際の子供たちの育ちや目指す姿から、「どうするか」を考えることが大切であることを学びました。



こども園の保育参観

今後は、各地域ブロックで取組が推進できるよう、組織体制を整えるとともに、市として一丸となって連携教育を進めていきます。

### 4 学校運営協議会を活用した実践

竹原市では令和3年度から市内全校でコミュニティ・スクールがスタートし、学校と家庭、地域が一体となった教育活動を推進しています。

例えば、総合的な学習の時間において、学校運営協議会の方々に自分たちの考えた企画を発表し、率直な意見をもらうことで修正・改善を図る等、本協議会を効果的な手立ての一つとして活用しています。

今後も、学校運営及び主体的で協働的な創意工夫のある特色ある教育活動を通して、「地域とともにある学校づくり」を推進していきます。



学校運営協議会の方々に試食をしてもらっている様子

### 5 おわりに

平成30年度に策定した「第6次竹原市総合計画」は、令和6年度から後期基本計画に入ります。これからも「文教のまちたけはら」の精神を受け継ぎ、地域の豊富な人材を活用しながら、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力、様々な情報を取捨選択する力等、子供たち一人一人に実践的な能力と態度を身に付けさせ、変化が激しく予測困難な社会を主体的に生き抜く力の育成を図ってまいります。



教育長  
高田 英弘